



2023年2月10日

各位

会社名 鈴 茂 器 工 株 式 会 社  
代表者名 代表取締役社長 鈴木 美奈子  
(コード番号：6405 東証スタンダード市場)  
問合せ先 執行役員 企画本部長 秋田 一徳  
(TEL. 03-3993-1396)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2022年5月13日付「2022年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表いたしました2023年3月期(2022年4月1日～2023年3月31日)の通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 業績予想の修正について

##### (1) 2023年3月期通期連結業績予想数値の修正(2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	13,000	1,800	1,800	1,315	101.81
今回修正予想(B)	13,390	1,230	1,150	770	59.60
増減額(B-A)	390	△570	△650	△545	—
増減率(%)	3.0	△31.7	△36.1	△41.4	—
(参考)前期実績 (2022年3月期)	11,565	1,517	1,543	1,070	82.96

(注)当社は、2022年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。

1株当たり当期純利益については、2022年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し算定しております。

##### (2) 修正の理由

2023年3月期通期連結業績につきまして、当社の主要顧客である外食・小売業における機械化や省人化の動きは加速しており、製品需要は高い水準で推移しております。一方、半導体や部材の供給不足による生産活動への影響は継続しているものの、第3四半期より改善が進んでおります。

このような環境の下、国内は、原材料価格やエネルギー価格の高騰、人手不足の進行等により、外食・

小売業にとっては厳しい事業環境は続いておりますが、省人化の動きは加速しております。業態別では、レストラン・食堂業態からのご飯盛付けロボット（Fuwarica）の製品需要が拡大したほか、大手回転寿司チェーンからの寿司ロボットの製品需要も堅調であり、国内売上高は想定を上回る見込みとなりました。

海外は、外食・小売業における人手不足の深刻化や人件費の高騰により、人の労働力を機械へ置き換える機械化の動きが加速しており、製品需要は堅調に推移しております。地域別では、東南アジアにおける外食需要の回復が進んでいることに伴い製品需要が拡大したほか、北米における外食事業者やスーパーマーケットからの寿司ロボットの製品需要が大きく伸長し、海外売上高も想定を上回る見込みとなりました。

このような動向を踏まえ、2023年3月期通期の売上高は前回予想を上回る見通しとなりました。

一方、利益面につきましては、売上高が前回予想を上回る見通しとなったものの、製品の材料費の高騰や海外子会社における棚卸資産の未実現利益の消去に係る為替の影響に伴い、売上原価率が上昇する見込みとなりました。加えて、第4四半期にて製品の材料費の高騰に伴う値上げを実施しておりますが、その影響は2023年3月期通期では軽微であることが見込まれ、売上総利益が想定を下回る見込みとなりました。

加えて、物流費高騰に伴う荷造運送費の増加や水道光熱費の増加、今後の海外での需要増を見据えた展示会費や海外出張による旅費交通費の増加、事業成長を見据えた基盤構築に伴うコンサルティング費用の増加を中心に販売費及び一般管理費が増加し、営業利益が前回予想を下回る見込みとなりました。

また、持分法適用会社 Bluefin Trading LLC において、第3四半期における業績悪化に加え、主要取引先に対する売上高の減少が見込まれ、取得時の事業計画において想定した超過収益力が見込まれなくなったことから、のれん相当額の未償却残高の全額を持分法による投資損失として営業外費用に計上し、経常利益は前回予想を下回る見込みとなり、親会社株主に帰属する当期純利益も前回予想を下回る見込みとなりました。

なお、期末配当予想につきましては、前回予想から変更はありません。

以上

(注) 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は上記予想数値と異なる場合があります。